

## 《今はむかし》

1 月中は、新潟県内、新潟市においても、まれにみる大雪に、雪国育ちの新潟県民でさえ悲鳴の上がるほどの月でした。No.20号でも大雪について紹介させていただきましたが、スペースが足りず十分お伝えすることができませんでしたので、今回は、『今はむかし』と題し、2005年12月22日～23日にかけて発生した新潟大停電も振り返りながら、今後の防災に備えるための意識作りも出来ればと特別号を作成しました。

とは言いながらも、意外と、この「新潟大停電」について思い入れのある人が少ないことに驚きました。

あっ、驚いたと言えば、今回の2時間の停電で、気づいたことがもう一つ。「意外と石油ストーブの使い方を知らない人が多かった」ということでした。このコンセントを使わない石油ストーブが注目されたのが、やはり災害時の停電。新潟大停電を機に、施設での防災用品として、備えておく施設が増えました。最近では、オール電化の家も増え、便利になった反面、いざ災害や停電となった場合のダメージは大きなものです。施設においても、今や電気が使えない状態は、致命的です。今回も介護士があわてている先には「ベットが動かせない」というものがありました。“冬の夜”ということで、暖と明かり、たん吸引器などの緊急時の医療機器の電源を真っ先に確保する意識はあったものの、いざとなると…。今回はたまたま、停電地区がまちまちであったため、隣の病院や向かいの薬局、一般の住宅の電気は普通についており、施設の設備故障かと業者を呼ぶなどスタート地点からバタバタでした。しかし、業者もいち早く駆け付けてくれ、設備に異常はなく、地区停電が原因であることが判明し、一安心で対応することが出来ました。職員のチームワークもさることながら、迅速な対応で各々が役割を果たしてくれたおかげで、ご利用者様に言葉をかけながら、不安を与えない配慮、夕食時であったこともあり「寒くないですか?」「ムードのあるバーか、料亭みたいですね、よく噛んで食べてくださいね」等、ご利用者様からも「お酒があればもっとよかったのにね」と笑い声も出、何とか場をしのぐことが出来ました。多くの職員が、ご利用者様もいつもと違う雰囲気や不安だろうし、夜勤者だけでは大変そうだからと、遅くまで残り食事の片づけや、トイレ誘導、就寝介助等対応してくれました。

2005年の新潟大停電の時もそうでした。クリスマスを前にした12/22の夕方～23日のお昼までの長時間にわたった停電に、真っ先に職員が取った行動が、利用者の居室へ走り、利用者全員に厚手の上着を着せていたことでした。22日の夕方の時点では、そんな長い時間停電になるとはだれもが思わずに、自家発電機の燃料が足りてくれることをひたすら祈っていた記憶があります。私は障害者の施設でしたが、利用者が落ち着き0時過ぎに家にもどった時には、家も停電で暗く、寒く、まだ施設でご利用者様と薄暗い中でも、話をしていた方が温かみがあったと思いました。

1/7の停電騒ぎの後から、2週間にわたって大雪となりました。村上市内でも除雪が間に合わない様子で、車での移動も大変な状況でした。

なんとか道路には轍ができ、その後に続けば走行することはできたものの、駐車場入口は、バンパーより高く積もった雪の壁に、入ることが出来ず。施設前の駐車場も消雪用の水は出ているものの、雪の積もる量が多すぎて、どんどんたまっていく状況。

雪国ということもあり、多少は雪に強いイメージでありましたが、近年の少雪を経験しているせいか、新型コロナウイルス騒動が後押ししてか、「もうたくさん…」という気持ちになりました。朝からみんなで除雪をして、何とかデイサービスの車を送り出し、一日がはじまりました。



施設玄関前は、水を出す消雪設備はあるものの、雪の降り方が激しすぎて、追いつかない状況 (R3,1/12)